

# 学校だより

2023年5月17日

NO. 2

「進んで学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」「がんばる子ども」の育成  
～あいさつをしよう・やくそくをまもろう・おもいやりをもとう～

泉佐野市立第三小学校

「唱えるで やさしい気持ちになれる 世界一かんたんな呪文」 byもずやん

5月も中旬にさしかかり、子どもたちは新しい学年での学校生活になじんできた様子です。本校の子どもたちは、いつもゆったりと穏やかな心で日々を過ごしてくれているな、と感じております。

さて、朝礼で私の方から子どもたちに「あいさつの大切さ」についてお話をし、教職員をはじめ児童会の子どもたちも今後主体的にあいさつ運動に取り組んでくれる予定です。

私自身、毎朝校門の前で子どもたちと「おはようございます」のあいさつを交わし、地域の各ポイントでは民生委員さんを始め、多くの方々が交通事故から子どもたちを守るとともに、笑顔であいさつを交わしてくださっています。

表題の「唱えるで やさしい気持ちになれる 世界一かんたんな呪文」とは大阪府の「こころの再生」府民運動で、もずやん（府のマスコットキャラクター）がうたっているキャッチフレーズです。



毎朝に交わす「おはようございます」というあいさつには、「私はあなたのことを大切に思っていますよ。今日も1日よろしくね。」というメッセージが込められています。子どもたちが周囲の人とつながることに温かみを感じ、感謝の思いを持つこと。感謝の思いを「おはようございます」「ありがとうございます」という言葉に込め、自分からあいさつができる人に成長することは、思いやりの心を育むうえでも欠かすことのできないことではないか、と考えています。

自分からあいさつができる人は、相手の人からも大切にされ、人とのつながりを充実させて生活を送ることができるでしょう。

ぜひ、ご家庭でも「おはようございます」「ありがとうございます」「こんにちは」「行ってきます」「行ってらっしゃい」等のあいさつをすることの大切さについて、お子様にお話してあげてくださいますようお願いいたします。

最後に以下のようなエピソードを添えておきます。

「あいさつ」は、たった一言ながら、その人の人生を変えてしまうことがあります。

「芸人としての才能がないからやめさせよう」とある青年が東京浅草の劇場から追い出されそうになった時、「彼のあいさつはすばらしい。やめさせないで。」という声が複数上がり、彼は仕事を続けることができた。

萩本欽一さんの若かりし頃の実話より

校長 泉谷 一